



ふるさとジオ塾通信第11号

塾生みなさん、こんにちは。

前回講座のクルージング、準備段階では「応募者が多かったらどうしよう」「最低2往復は必要かも」などと心配？をしていたのですが、いざふたを開けてみたら参加者は船の定員ぴったりの12名。船酔いを心配して参加を見送った塾生が多かったのかも知れませんが、でも、講座の日はベタ風とは言えないまでも穏やかな波。船が大きく揺れることはほとんどなく、一人もダウンすることなく無事に終わりました。今回参加を見送られたみなさん、もし来年も同じような講座がありましたら、ぜひチャレンジしてくださいね。



第6回（9月）講座のご案内



次回の第6回講座は、今年2回目のバスツアーです。テーマは様似の鉱工業。今から370年ほど前に様似に和人が移り住むきっかけとなった東金山の金鉱山跡や現在も石灰岩を採掘している浦河町にあるムコロベツ鉱山を訪れるほか、日高エレクトロンの工場見学も行います。ジオ塾では初登場の場所ばかりですので、ぜひご参加ください。

なお、開催日ですが、以前ご案内していた9/11（日）ではなく、**9/10（土）に変更**となっていますので、ご注意ください。

【第6回講座 バスツアー「様似の鉱工業の現場をのぞいてみよう」】

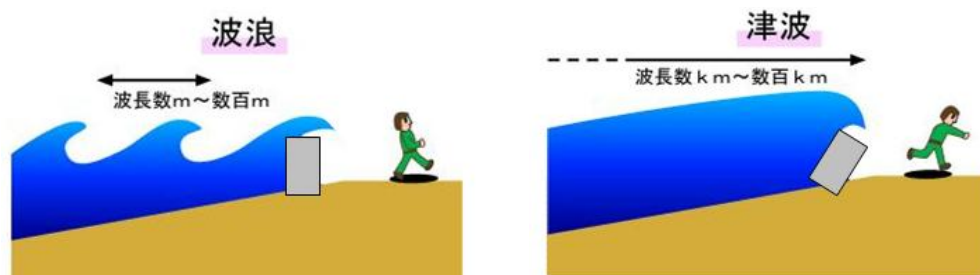
1. 開催日：平成23年9月10日（土） 9:00～12:00
2. 申し込み：事前の申し込みが必要です。**9月8日（木）まで**にお申し込みください。
*バスの定員の都合上、予定人数に達し次第受付を締め切ります。
申込先：電話 36-2120（アポイ岳ジオパーク推進協議会事務局：役場商工観光課内）
3. 集合：8:50 様似中央公民館前
4. 持ってくるもの
アポイ岳ジオパークガイドブック 筆記用具
5. 雨天等の場合：よほどの悪天候でない限り実施します。

津波のこと:その3(最終回)

-波浪（普通の波）と津波の違いは何？-

海域で吹いている風によって生じる波浪は海面付近の現象で、波長（波の山から山、または谷から谷の長さ）は数メートル～数百メートル程度です。一方津波は、地震などにより海底地形が変形することで周辺の広い範囲にある海水全体が短時間に持ち上げたり下がったりし、それにより発生した海面のもり上がりまたは沈みこみによる波が周囲に広がって行く現象です。

津波の波長は数キロから数百キロメートルと非常に長く、これは海底から海面までのすべての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せることを意味します。このため津波は勢いが衰えずに連続して押し寄せ、沿岸での津波の高さ以上の標高まで駆け上がります。しかも、浅い海岸付近に来ると波の高さが急激に高くなる特徴があります。また、津波が引く場合も強い力で長時間にわたり引き続けるため、破壊した家屋などの漂流物を一気に海中に引き込みます。



* 本コラムの文章と図は、気象庁のホームページから引用しています。

ジオコラム ⑧

第5回講座のおさらい

「神々の国だ！ 沖からみる様似」

今回のテーマの一つは、高田屋嘉兵衛になりきって、様似の風景を眺めてみることに。そこで、出港前に高田屋嘉兵衛、そして様似との関係について、ちょっとだけお勉強です。講師は「様似自然・歴史情報センター」主宰の水野洋一さん。

①高田屋嘉兵衛 1769～1827年

江戸時代後期の廻船業者、海商

現在の兵庫県淡路島の農家に生まれる。18歳で廻船業に従事し、27歳の時に当時最大級の1,500石積(約225トン)の辰悦丸を建造、独立する。

近藤重蔵や最上徳内などの幕府役人の信頼を得て蝦夷地交易を許可される。幕府の命令(依頼)により、未踏だった国後島から択捉島への新航路開拓に成功

ロシアと幕府との紛争(ゴローニン事件)の影響を受け、国後島付近でロシア船に捕縛され、カムチャツカ半島で越冬。翌年帰国し、紛争解決に尽力し成功。



②北前船

江戸時代から明治時代にかけて、大坂～関門海峡～日本海沿岸の航路を用いた船。航路は後に蝦夷地にまで延長。当時、日本海のことを北前(きたまえ)と呼んだため。

下り便は、蝦夷地での日常生活品や塩、米、酒などを積み、3月下旬ころ大坂を出港。途中、瀬戸内海や日本海沿岸で商売をしながら北上、5月下旬ころ蝦夷地に到着。

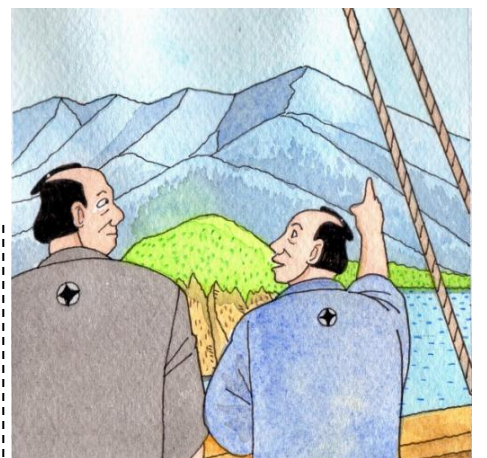
上り便は蝦夷地の海産物(ニシン、昆布、数の子など)を積み込み、7月下旬ころ蝦夷地を出港。11月下旬ころ大坂に到着。



③高田屋嘉兵衛と様似町

嘉兵衛は何度か様似に寄港している。辰悦丸が最初に様似に入港したのは1800年。シャマニ会所開設及び様似山道完成(ともに1799年)と同時期。

高田屋嘉兵衛の生涯を描いた司馬遼太郎の「菜の花の沖」では、最初に様似に寄港した際の様子を、次のようにあらわしています。



「すぐ船からはしけをおろし、嘉兵衛は乗った。北東の空にピネシリ山というぬきん出た高峰があり、海岸からその山麓までが平地である。原生林が点在し、川や沼が、銀の象嵌(ぞうがん)のように冷たくかがやいている。

(神々の国だ)

と嘉兵衛はおもった。」(司馬遼太郎『菜の花の沖』より)

なお、嘉兵衛が没した後、高田屋の船栄徳丸が様似沖でロシア船と密貿易の嫌疑をかけられ、当主であった弟、金兵衛が逮捕。これがきっかけで高田屋が没落というのも何かの縁か。



【ここからは、クルージングの様子です。】

いざ出港

さあ、高田屋嘉兵衛のことを学んだ後は、いよいよ出港です。今日乗る船は、様似の久野漁業の鮭定置網船、第十一天幸丸です。今日、この船は平成の辰悦丸なのです。



親子岩のウラの顔 まず目指したのは様似海岸のシンボル親子岩。普段から見慣れているこの岩ですが、陸からは絶対に裏側を見ることはできません。陸からとは親子の並びが逆になった親子岩を見るのは、なんとなく不思議な感じがします。



天然の良港エンルム岬 親子岩のウラの顔をたっぴりと堪能した後は、エンルム岬の南端を回って、様似市街沖へ。南北に細長い陸繋島のエンルム岬は、東西いずれの風からも船を守ってくれる、まさに天然の良港。様似という町がいまここにあるのは、このエンルム岬があったからこそ。なお、「菜の花の沖」の嘉兵衛は、エンルム岬の東西どちらに船を泊めるか少し悩んだあと、東側（えりも側）に泊めています。

神々の国だ！ 「菜の花の沖」の嘉兵衛はエンルム岬の東に辰悦丸を停泊させた後、はしけに乗って様似に上陸します。そのはしけの上から当時の様似の風景を眺めた時、嘉兵衛は「神々の国だ」とおもうのです。間違いなく右の写真の風景を嘉兵衛も見ただけです。さて、今回の講座の日はどうでしたか？ 神々の国は見えたかな？



さて、様似市街沖を離れ、船は東へと向かいますが、9月から始まるアキアジ漁に向けて沿岸に定置網の型枠が設置されていますので、ちょっと遠回りになります。それを避けるために少し沖合を走らせます。しかし、この遠回りが、うれしいハプニングを呼び込んでくれることになります。

そのハプニングとは、**イルカとの遭遇**です。5頭ほどの群れが船に近づいてきて、船の下をくぐったり、伴走したりと大サービス。塾生たちも思わぬ遭遇に大喜びでした。ちなみに、このイルカはカマイルカという種類。背びれの形や色がまるで草刈鎌そっくりです。



イルカたちとさよならした後は、断崖絶壁が続く**日高耶馬溪**へ。沖からみると、海岸沿いの道しかなかった江戸時代以前、ここは時には命がけで通ったという交通の難所であったことがよく分かります。船の前方、崖の下に白く見えるのが鵜の鳥岩、さらにその先の崖に見える縦のくぼみが念仏坂です。

幌満の沖でUターンした船は、**アポイ岳**を眺めながら帰路へ。行きは雲に隠れていたアポイ岳の頂上もようやく姿を現しました。こうしてみると、いかにアポイ岳が海に近い山であるか実感できます。この海との近さが、低標高のアポイ岳に高山植物の花が咲く理由の一つでもあるのです。

さあ、約2時間のクルージングもこれで終わりです。沖から眺める様似はいかがでしたでしょうか？



今後の講座 第6回講座 9月10日(土)午前 野外 バスツアー(ムコロベツ石灰岩鉱山、日高エレクトロンほか)
(予定含む) 第7回講座 10月16日(日)午前 野外 バスツアー(幌満峡、幌満ダムほか)
第8回講座 11月2日(水)夜 野外&座学 陸の生きもの(ナイトウォッチングあり)

編集後記：9/28~10/1の日程で、洞爺湖有珠山ジオパークを会場に日本ジオパーク全国大会が開催されます。この大会は昨年新潟県の糸魚川ジオパークで初めて開催され、今回が2回目です。9/30には作家倉本聰さんの講演会、10/1には2000年の噴火遺構などを巡るジオツアーなどもあり、一般参加もできますので、興味のある方は右記事務局までお問い合わせください。

アポイ岳ジオパーク ふるさとジオ塾通信 Vol.11
発行：2011年9月
発行元：〒058-8501 様似郡様似町大通1丁目21
様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会事務局
(様似町役場商工観光課)
電話：0146-36-2120 FAX：0146-36-2662
E-mail：apoi.geopark@festa.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www.apoi-geopark.jp/